



なぜ私がドン・キホーテ?①

あなたの“見果てぬ夢”は何ですか?

定年退職の熟年男2人「ラ・マンチャ道中膝栗毛」

アルカラ・デ・エナーレス

国王、首相も出席しての授賞式

旅は東京でのひよんな出会いから始まりました。2005年の9月半ば、信濃町でスペインの親娘と出会ったのです。話が弾み、私は10月初め、「ドン・キホーテ」出版400周年の取材旅でスペインを訪れる計画があることを伝えると、娘のスサナさんが相好を崩して語りかけてきたのです。「じゃあ、私の町に来なくちゃ。セルバンテス生誕の地よ。今、いろんな記念行事をしていてとてもにぎやかだワ」

「ラ・マンチャの舞台を訪ねて」——当初、旅はマドリードのスペイン広場から始める予定でしたが、彼女の思いがけない申し出に予定を変更、まずは“原点の町”アルカラ・デ・エナーレスへその一歩を運んだのです。

マドリードから東へバスで約30分。街に入ると車道の両側にはカラーのエンブレムがにぎやかに歓迎していました。「セルバンテスのドン・キホーテ400周年——作者の町：アルカラ・デ・エナーレス市議会」。

セルバンテスの生家は400年の歴史をにおわす大きな2階建てでした。中庭を囲むように居間、食堂、寝室、家族また使用人の部屋があり、当時の生活用品がそのまま陳列されています。玄関前の歩道には、ドン・キホーテとサンチョ・パンサの像が置かれていて、観光客の記念スナップの場となっていました(第1回のプロフィール紹介のところまで私が写っていた写真です)。

10月10日には1498年創立のアルカラ大学の講堂で、セルバンテス賞の授賞式も行われました。スペイン語圏の作家にとって最高の荣誉です。これにはカルロス国王、ソフィア王妃、サパテロ首相も出席しその意義をとどめていました。(帰国後、地元アルカラ新聞からメールインタビューを受け、記事は昨年2月に1ページにわたり掲載されました。原文<スペイン語>、日本語訳ともホームページで紹介しています。URLは：<http://homepage2.nifty.com/donky/> です。)

マドリード・スペイン広場

主人公たちを見守るセルバンテス

マドリード市内で人気のある観光スポットの一つスペイン広場。大きな長方形の池を前にした広場中央の台座に、槍を掲げやせ馬ロシナンテに乗ったドン・キホーテとロバにまたがったサンチョ・パンサの像があります。その後方の高い台座には、作者セルバンテスが小説の主人公二人を見守るように座っている。セルバンテス没後300年を記念して建てられたものです。

観光客が池や像の前で賑やかに代わる代わる記念撮影をしています。周囲が工事中のようになっている。広場に沿った通りのキオスクの店員に尋ねてみました。「そう、あれは地下鉄工事のための資材なんだ。世界からここに来てくれる観光客の皆さんには、ちょっと目障りだろうけど、もうしばらく我慢してもらうしかないだろうね。ドン・キホーテの時代から近代化へ。この交通渋滞を緩和してもらう取り組みも大切だしネ・・・」



カンボ・デ・クリプターナ

ドン・キホーテが悪魔と見て格闘した風車群

マドリードからは列車でカンボ・デ・クリプターナへ。タクシーを雇い風車の並ぶ丘に上る。10基の風車が点在している。車から降りる。風が冷たい。風車が回るためには風が強いのは当然だろう。でも今ほどの風車も回っていない。かつては風力を利用し、粉ひきに活用していたのですが、現在は完全に観光用と化しています。

ドン・キホーテはこの風車を邪悪な巨人と信じ込んで戦いを挑みました。

——この時、あの大野には今もある粉挽場の風車が三、四十あらわれた。ドン・キホーテは、それに目をとめるやいなや、従士に言った。「天はわたしたちの仕事を、願ってもみられないほど上首尾に、運んでくださるぞ。それ、あそこを見なさい、サンチョ・パンサ。山のごとき巨人が三十びき、いや、ももっとじゃろうな、立ち現れたではないか。かれらと一戦におよび、みなごろしにしてくれよう……」

「巨人がどこに」と、サンチョ・パンサがきいた
「それ、あそこに見える長い腕のやつらじゃ」と、主人が答えた。中には、腕の長さ二里に達するのさえ珍しくないぞ」

「おめえ様、待ってくんせえ」と、サンチョ。「あそこにめえるは巨人でねえ。粉挽場の風車でがすよ。腕とめえるのがね、それ、風でまわって石臼を動かす、はねぎだよ」

.....

(サンチョの止めるのも聞かずにドン・キホーテは乗っているロシナンテに拍車をくれ)、

一ばん手前の風車に突いてかゝった。すると、槍先がはねぎにふれるよと見えた時、にわかにかき起こった風が恐ろしい勢いではねぎを回転させたから、槍はぶち折れるし、馬と騎手はそっくりさらわれて、後方へぼんと棄てられ、さんざんな態たらくで、野っばらころがっていった

(永田寛定訳)——

作品の全部を知らない人でもここだけは知っているでしょう。あまりにも有名なシーンです。観光案内所では2人の女子スタッフが電話でやり取りをしていました。受付の横には、松本幸四郎演ずる「ラ・マンチャの男」のポスターも貼ってあります。忙しい電話の合間を縫ってセニョリータに質問する。

「そう、日本からの観光客が圧倒的に多いわね。シーズンには1日平均4台の大型バスがやってくるワ。その次はフランスそしてドイツかしら……」

訪問ノートには、ぎっしりと日本人の署名もありました。

エル・トボン

世界54カ国語の翻訳書が一堂に

翌日には、エル・トボン村にあるドン・キホーテ図書館を訪ねました。全部で54カ国語の翻訳書があるといいます。サイン入りで寄贈してきた国家元首では、アメリカのレーガン大統領、イギリスのサッチャー首相、フランスのミッテラン大統領、ポーランドのワレサ大統領、南アフリカのマンデラ大統領など。中にはイタリアのムッソリーニからのものもあり、歴史の一段面をのぞかせていました。



午後2時。スペインでもちょうど昼食の始まる時間です。我々もレストランに入る。と、ここにも20人ほどの日本人グループ。大型観光バスでやってくる一行は、ほとんど全員がカメラを手に写真を取りまくり、土産品店では次々と買い物、食事も短時間でかっこむと一斉に風のごとく席を立てていく。ワインを飲みながら静かに懇談している何組かのヨーロッパ各国からの旅行者とはきわめて対照的です。

こうした日本人の「ドン・キホーテ」への関心の高さ。それはこっけいな冒険譚(たん)もさることながら、狂気と言われながらも理想に向かって突き進む主人公のどこかに惹かれるものがあるからではないでしょうか。特に未来に夢を描くことが難しい現代の日本の社会にあっては・・・。



「人生自体が狂気じみているとしたら、一体本当の狂気とは何だ本当の狂気とは。夢に溺れて現実を見ないのも狂気かも知れぬ。現実のみを追って夢を持たぬのも狂気だ。だが一番惜むべき狂気とは、あるがままの人生に折り合いをつけて、あるべき姿のために戦わないことだ」

——セルバンテス(ミュージカル「ラ・マンチャの男」=森岩雄・高田蓉子訳=より)

私も、そんなあるべき姿のために戦おうとしている一人を自認してはいるのですが・・・。



GRUPO DAIKOKU



RESTAURANTE DAIKOKU

...Simplemente japonés

Michoacán

Av. Michoacán No. 25
Col. Hipódromo Condesa
México, D.F.
Tels.: 5584-9419, 5584-3038

Río Pánuco

Río Pánuco No. 170
Esq. Río Nilo
Col. Cuauhtémoc, México, D.F.
Tels.: 5525-6520, 5514-8257

Komasa

Gral. Sánchez Taboada No. 10132
Col. Zona del Río
Tijuana, B.C.N.
Tels.: (01-664)684-2363, 634-6885

Restaurante • Café • Bar

musuko

¡Sushi Barra Libre!

Solo lunes, martes y miércoles
\$190.00 por persona

¡Lady's Day 40% jueves!

¡Men's Day 40% viernes!

Para mayores de 18 años

Nuevo León No. 160 esq. Campeche
Col. Hipódromo Condesa México, D.F.
Tel.: 5553-1443, 5553-8653

musumé

¡Sushi Barra Libre!

Solo lunes, martes y miércoles
\$180.00 por persona

¡Lady's Day 40% jueves!

¡Men's Day 40% viernes!

Para mayores de 18 años

Río Nilo No. 71 esq. Río Lerma
Col. Cuauhtémoc México, D.F.
Tel.: 5208-6708, 5208-7172